

## 全 A ネットミニセミナー in 新潟

### 「A 型事業所の未来 ～世界と次世代の潮流～」



主催 NPO 法人就労継続支援 A 型事業所全国協議会(全 A ネット)、新潟 A ネット (仮称)

日時 2022 年 11 月 27 日(日) 14:00～17:00

開催場所 ホテルニューオータニ長岡 3 階 うめの間  
(〒940-0048 新潟県長岡市台町 2 丁目 8 - 3 5)

参加人数 会場参加：26 名以内 (感染防止対策のため、原則新潟県限定)

リモート参加：42 人程度

参加費 無料 (ヤマト福祉財団助成)

#### タイムスケジュール

##### 14:00～ 久保寺理事長 挨拶

「全 A ネットは良い事業所を増やしたいとの想いで立ち上げた。今臨時国会にて関連法案が審議されている。今後はスコア方式と A 型の在り方が検討されることになっているが各事業所は、まずは良き A 型を目指すこと、情報開示をすることが求められている。」と開会の挨拶がされた。

##### 14:10～ 記念講演 「世界の中の A 型事業所」

明治学院大学 社会学部 社会福祉学科 教授 米澤 旦 氏

「A 型事業所が出来て約 15 年。雇用の場 (働く場) は日本に限らずに求められている。アクティベーションとソーシャルファーム (韓国での社会的企業) について話をしたい。これらのことを踏まえて、今後どのような示唆があるかを話したいと思う。

A型事業所数の推移を見た時、2007年から2017年に向けて急激に増大したが、自立支援政策はヨーロッパを中心に取り組まれている。これらはアクティベーション戦略（政策）と呼ばれており、就労可能年齢にある人々に対して有用なことをなすこと（とりわけ就労）は公的給付終了期限まで何もしていないことよりも良いと言われている。

日本では支える側と支えられる側には大きな隔たりがあり、「制度の狭間の問題」になっているが最近の障害者就労の取り組みでは、東京都の条例でもソーシャルファーム（就労困難者の就労の場を社会的企業のこと）の展開などの動きがみられている。

CEFEC（サフェック）では具体的にソーシャルファームの定義もされており、ヨーロッパを中心に社会的企業に対して1990年から2000年間に法制度化されてきた。

社会的企業とは、経済的に自立していること、社会的な貢献、包摂的なガバナンス（情報公開や当事者の参画やステークホルダーの参加、利潤の分配を制限しているかという視点）が特徴として挙げられている。

エコシステム（公的資源、金融機関、職業訓練を行うような組織も含めた組織ネットワーク）も同時に注目がされ、韓国では雇用創出するような制度が充実しているので社会的企業数も増加している。

地域社会の共有資源（ベーシックアセット）としてA型事業所を捉えることが重要なのではないか。よりよい障害者就労の場になるための取り組みとして「参加的ガバナンス」や「A型事業所のエコシステム」のような視点で活動を広げることで地域の担い手になるのではないかと考えている。」との内容の講演がされた。

## 15:15～ シンポジウム 「若手経営者が語るA型事業所」

若いA型事業所経営者が集まり、20年後のA型事業所について学び、熱く語ることで現在と未来の事業所の在り方を考えます。

### ○シンポジスト

株式会社 With You 代表取締役社長 小林 俊介氏

株式会社ジルベルト 代表取締役 福田 裕士氏（体調不良により当日欠席）

株式会社 SANCYO 代表取締役 嘉村 裕太氏

### ○進行

全Aネット事務局 熊木正嗣氏

悪しきA型問題が7～8年前に話題があった。7割のA型を営利法人が運営されている。営利法人でありながら、良い運営をされているA型の実践を報告頂きたい。

事業所スライド紹介を小林氏（with You）「給付費収入を事業収入が上回るように意識して運営している。」、福田氏（ジルベルト）「重度障害の兄のことを考えた時に転職をして、福

社の業界に足を踏み入れようと思った。SNS は外向けの発信、内向きにはジルベルト手帳理念の共有をしている。」、欠席の嘉村氏（SANCYO）に代わりシンポジスト2人から「インフラ（生活を支える基盤）になりたいと A 型事業所を 4 つ。パソコン事業や農福連携でイチゴなど農産物の生産を行っている。」などの紹介がされた。

シンポジウムの冒頭は「ガバナンスについて営利法人の意思決定が偏りやすいのではないか。問題提起できることはあるか。」との問いに対して、

小林氏「取締役が一人しかいないので組織力を上げていかなければと考えている。」「地域に根差した事業を行いたい。」

福田氏「理念が浸透していると売上 4 倍に上がる。4 年までは（浸透していなくても売上は上がるが、どっかでズレが生じてくるし、微調整が出来なくなるのでは。」「給付費で安定的な売り上げはあるので、理念を浸透させるための時間的な猶予があると思う。」

「人事評価で行動を改変させていくことを考えている。」

熊木氏「アウトプット（結果）で示してくことは言うは易し、行うは難しだと思う。」

福田氏「働きやすい職場ではなく、働きやすい社会にすると理念をしないとパート社員には理解しにくい。理念は経営者がよくよく考えないといけない。」

福田氏「障害あるから興味があるわけではなく、やる気がある人に何ができるかなと考える。」

小林氏「営利法人より NPO の方がやり易いとも思ったが地域と関係をつくる上で株式会社の立場で話をしたいと思って事業を立ち上げた。」

福田氏「経営が上手くいってれば継続するし、上手くいかなければ淘汰される。覚悟を持ってやっていきたい気持ちから営利法人なのかなと思っている。」

小林氏「20 年後も継続していきたいが、課題解決のために事業を行っているので、（A 型のサービスが、給付が）なくなっても大丈夫になっているといいなと思っている。」

福田氏「福祉の支援員の給与・年収が能力に比例して上がっていくような業界になって欲しい。」「福祉サービスがこれまでどおりとは思えないので給付費がなくなっても継続できるようにしたい。資本が大きな法人に買われることも考えながらこれからを考えたい。」

「A 型はよいサービスだと感じているので、医療のようになりたいし、社員を守れるようになりたい。」

まだまだ話題が尽きない中で、若手経営者の営利法人の立場からの A 型事業所について熱く語っていただきました。



17:00～ 閉会挨拶 全A新潟 小林代表